

㊦県立熊本はばたき高等支援学校新築事業

授賞機関 熊本県 土木部 建築住宅局 営繕課

キーワード 利用者ニーズ、ワークショップ、安全安心な学習環境

全建賞審査委員会の評価ポイント

生徒や先生を対象としたワークショップの実施による、より利用しやすく安全安心な学習環境整備の取組み。設計及び施工段階において、ワークショップを実施し、生徒や先生の声を丁寧に拾い上げ、設計に取り入れた事業であり、関係者が利用しやすく、思い入れのある学校建築となっている点が評価された。

1. はじめに

熊本県では、全国の傾向と同様に、知的障がいを持つ児童生徒数の増加が顕著であり、過去10年間で1.4倍も増加している状況である。特に熊本市及びその周辺の特別支援学校の過密化・教室不足の深刻化や、軽度知的障がいの生徒を対象とした高等支援学校のニーズの高まり等、喫緊の課題が生じている。

県立熊本はばたき高等支援学校は、知的障がいのある高等部生徒を教育の対象とし、各種の職業実習室や生活訓練施設を備え、卒業後の就労や生活を見据えた幅広いニーズへの対応を行うことを目指している。

2. 事業の概要

本事業では、設計段階及び施工段階において、生徒や先生方を対象としたワークショップを実施し、一般の学校建築とは異なる利用者ニーズの把握に努め、生徒や先生方の声を拾い上げてカタチに残せるよう取り組んだ。これらのワークショップを通して、より利用しやすく安全安心な学習環境が整った。

また、施工段階におけるワークショップやイベントを通して、生徒や先生方はもちろんのこと、本県職員・設計者・施工者にとっても思い入れのある建築となった。



鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）4階建て
建築面積 3,240㎡ 延床面積 8,749㎡

3. ワークショップの進め方と成果

本支援学校の前身である、熊本支援学校高等部東町分教室の生徒及び先生方を対象に、今の学校で残して欲しいもの・場所や新しい学校に欲しいもの・場所等について、たくさんの事例写真や図面を元にグループ討論し、それぞれ発表してもらった中から設計に取り入れられるアイデアをいただいた。

例) 生徒昇降口から職員室を見渡せるレイアウト
また、職員室からも登下校時の生徒の様子が伺える普通教室前の廊下幅を広く取り、可動パネルとの組み合わせで自由な学習環境を創り出す
清掃作業の実習に使えるよう、幾つかの形態の窓を配置

また、設計がある程度進んだ段階で、1/100模型によるボリュームスタディを実施し、特に図書室とトイレの計画について生徒や先生方の意見を設計に取り入れた。

例) トイレの入口は、生徒のプライバシーに配慮しつつも管理しやすい配置
トイレ内にベンチを配し、友人を待てるスペース



設計時ワークショップ
(グループ討論)



施工時ワークショップ
(部材に記念の落書き)

4. おわりに

事業実施にあたっては、熊本地震発災直後の平成28年から設計プロポーザルに取り組み、他の県有施設の災害復旧業務と併行しつつ紆余曲折を経てようやく令和元年9月に竣工した。

このような中においても、営繕課ではより良い学校施設整備のためワークショップの手法を取り入れ、業務の負担は大きく増えたものの、それを上回る大きな成果が得られた。

これらワークショップの取り組みに協力いただいた関係者、特に施工者と主役である生徒たちにあらためて感謝申し上げる。



賛助会員 村本建設(株)、(株)九建総合開発、(株)熊本電設、(株)ミナミ冷蔵